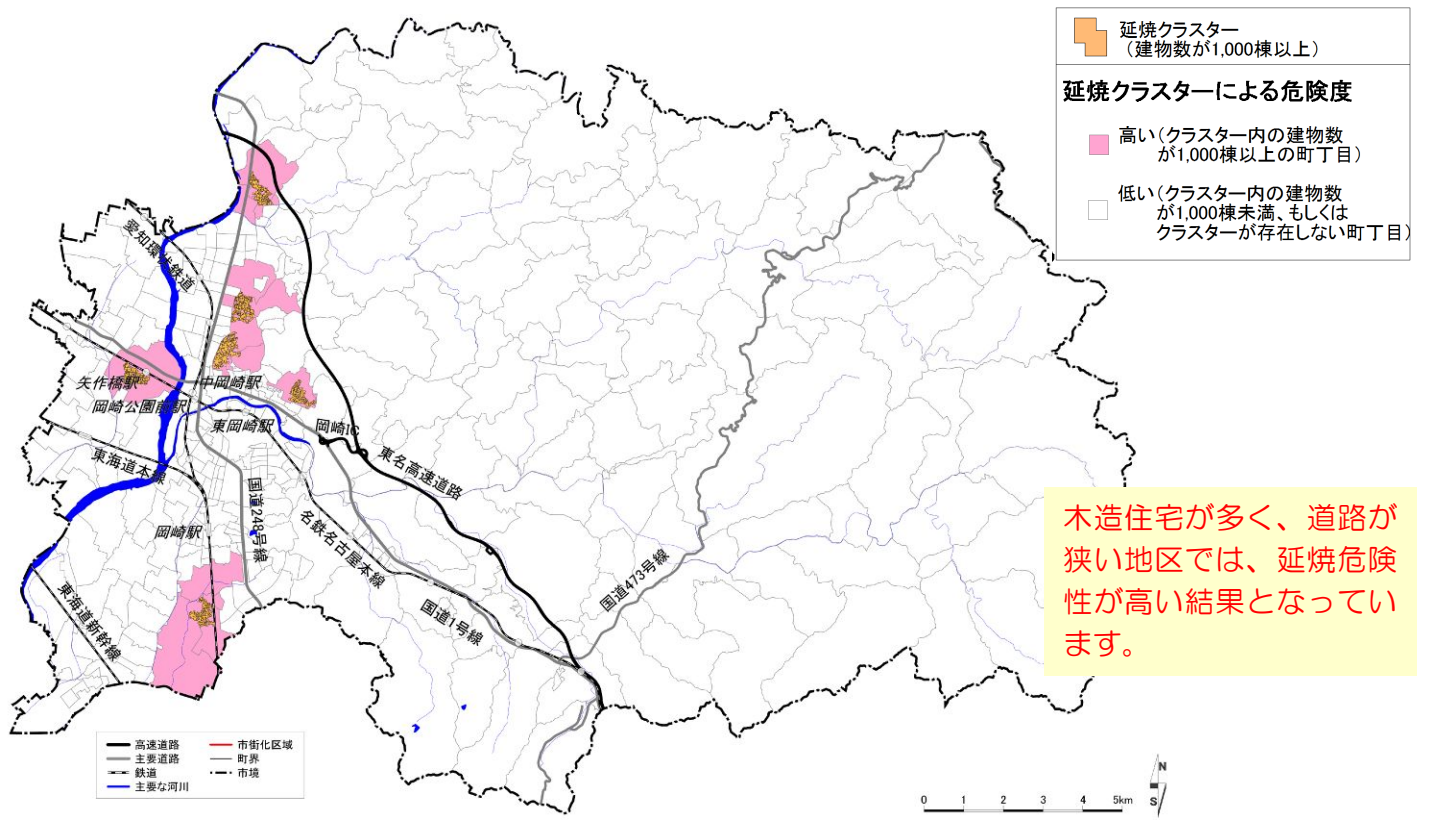


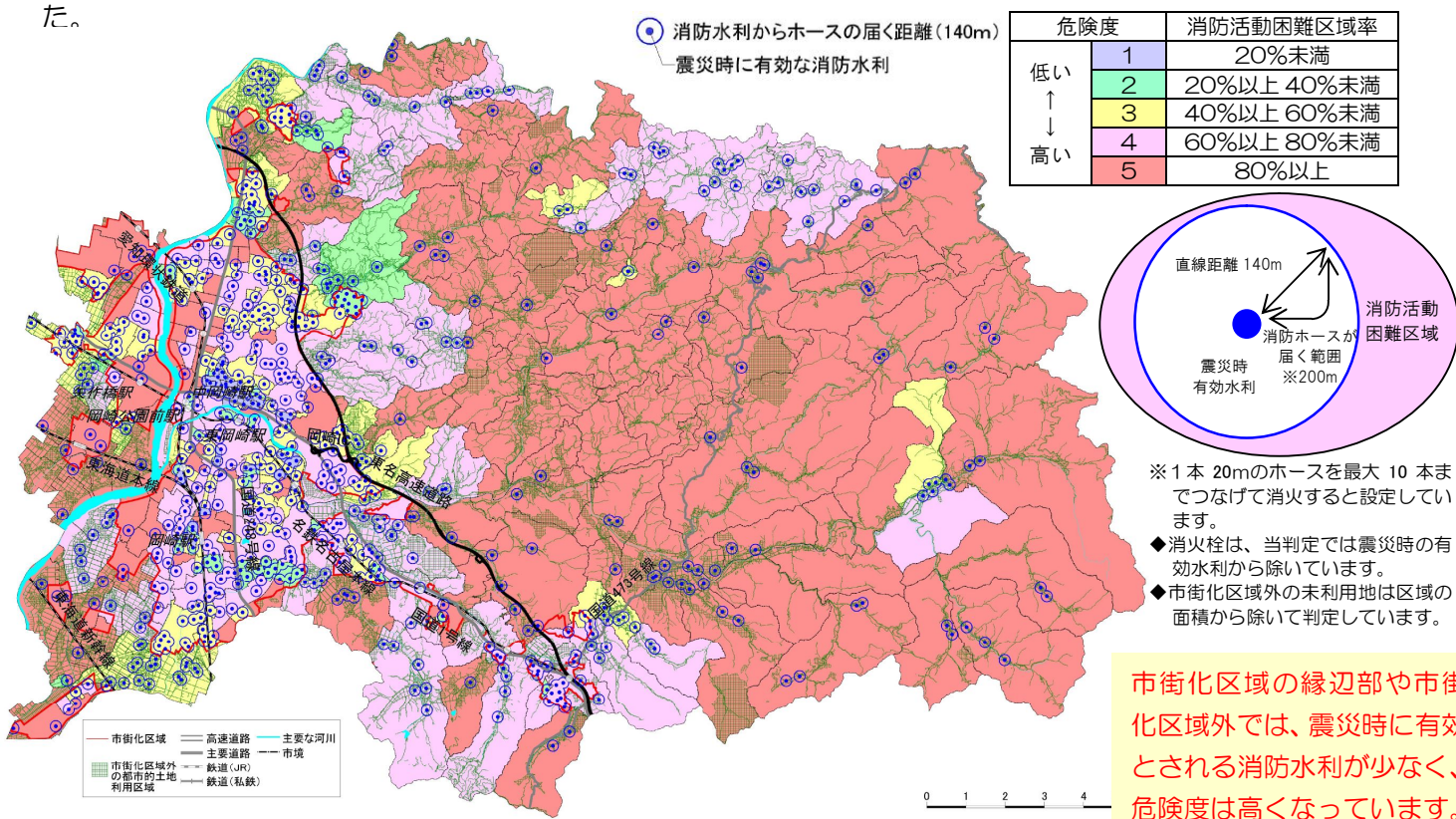
## ① 地区の延焼の危険性（延焼クラスターによる危険度）

延焼クラスターとは、地震に伴う火災が、消防活動が全く行われずに放置された場合の延焼範囲（運命共同体）です。一つの延焼クラスター内に1,000棟以上の建物がある地区を、延焼危険性が高い地区と判定しています。



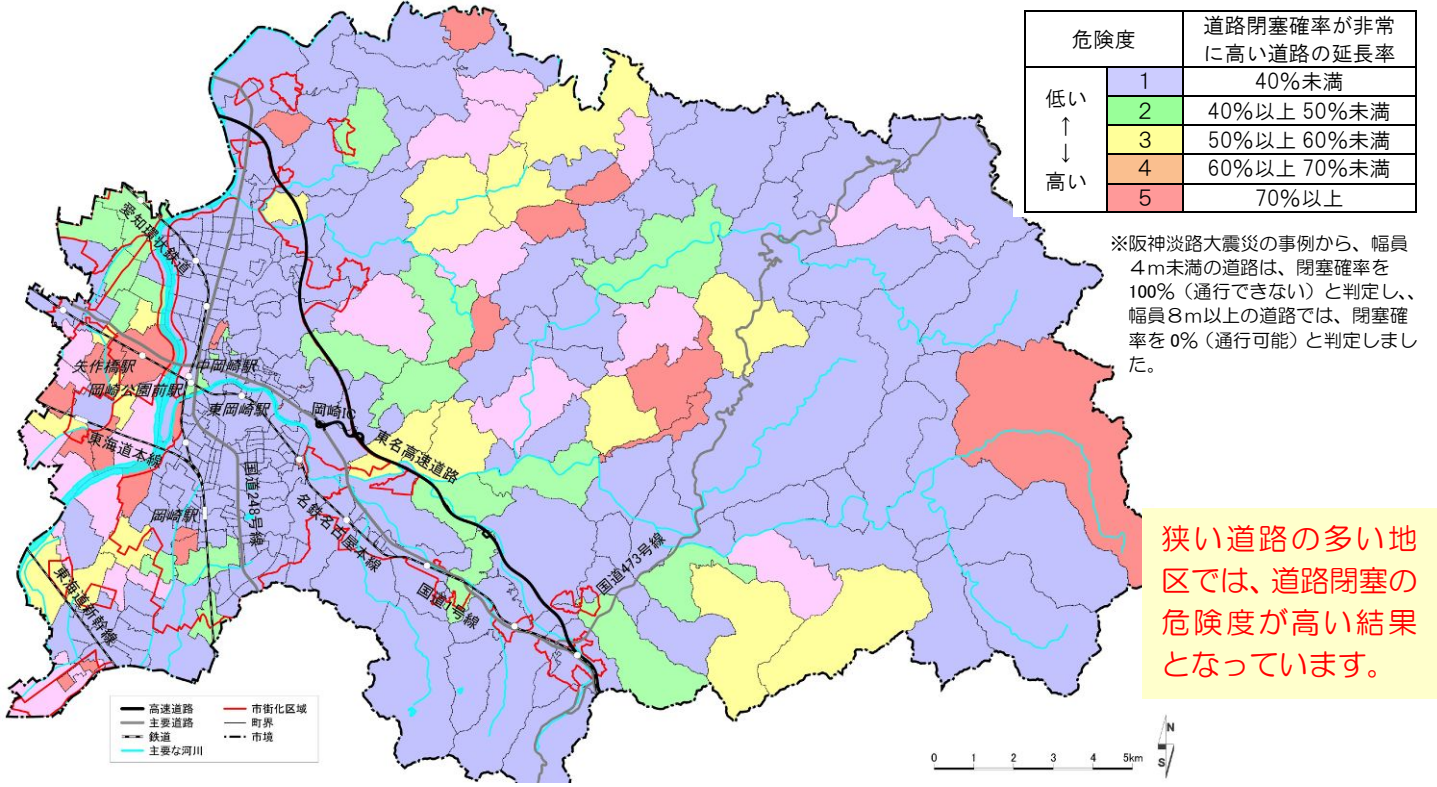
## ③ 消防活動の困難性（消防活動困難区域率による危険度）

大規模地震時に有効と想定される消防水利（防火水槽など）の位置と、その有効消防水利からの消防ホースの届く距離を考慮し、消防活動困難区域率を算定し、それを消防活動の困難性として5段階の危険度で判定しました。



## ② 道路閉塞の危険性（道路閉塞確率による危険度）

大規模地震時に、建物等の倒壊によるガレキ等により、道路が閉塞する確率を、路線ごとに算定しました。この道路閉塞確率が非常に高い路線の割合を、各地区ごとに算出し、道路通行の困難性を5段階の危険度で判定しました。



## ④ 一時避難の困難性（一時避難困難区域率による危険度）

避難場所や都市公園あるいは農用地といった、緊急的な避難ができる場所までの距離によって、一時避難の困難性を判定しました。避難場所等からの直線距離が350m（歩行距離500m）以上となる市街地の区域の割合を、一時避難困難区域率として算定し5段階の危険度で判定しました。

